

# 館 蔵 品 展

## 【第1期】

平成16年1月17日（土）～ 3月14日（日）

考古・歴史・教育部門

## 【第2期】

平成16年3月21日（日）～ 6月13日（日）

植物・動物・地学・民俗部門

## 開催にあたって

この企画展は、博物館資料の収集・整理、調査研究活動のまとめとして毎年開催しております。

今回は、整理が終了した資料の紹介や話題性のある新収蔵品の紹介など、本館所蔵の未公開資料を中心に展示します。展示は2回に分け、第1期として歴史・教育・考古、第2期として植物・動物・地学・民俗の各部門の資料を展示します。本展をとおして、山形県の自然や文化に対する理解が深まれば幸いです。

本展を開催するにあたり、資料をご寄贈いただいた方々や収集・調査研究活動にご協力いただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

## 山形県立博物館

## 【第1期】

平成16年1月17日（土）～ 3月14日（日）

考古・歴史・教育部門

### 【考古】<sup>そうほうかんづかがしら</sup>双鳳環柄頭

1937年ころ最上郡豊里村（現鮭川村）京塚から見つかったと伝えられるものです。<sup>ちよくとう</sup>直刀の柄の先端に環状の装飾がついたもので、これは突き刺した刀を引くときに手から抜けないためのものです。

<sup>ろうがたちあうぞう</sup>蠟型铸造の金銅製で、柄頭の環状の中に、二羽の<sup>ほうおう</sup>鳳凰が玉を争っている図柄を透かし彫りにし、タガネ細工を施し、<sup>と きん</sup>鍍金（金メッキ）されたものです。環の部分は竜の身体になっており、小さな円でウロコが表されています。古墳時代6世紀中葉のものです。



双鳳環柄頭

展示資料：双鳳環柄頭

### 【歴史】明治・大正期の山形県全図と市街図

政治や産業・交通など社会の変化とともに地域は大きく変わるのが普通です。行政区画の改変によって市町村界が変わり、産業の変化や交通の発達にもなって市街地の<sup>へんぼう</sup>景観も大きく変貌します。

明治時代に入ると、山形でも城下町が変貌し、交通網も大きく変化しました。

本館所蔵の絵図・地図の中から、明治・大正期に作成・刊行された山形県全図および山形市と鶴岡市の市街図、さらに同じ時期の錦絵等を合わせて展示し、その時どきの姿を理解するとともに、変化の有様とその背景を探ろうとするものです。



大日本帝国山形県管内全図(明治27年)

展示資料：山形県一覽全図（明治11年）、山形市街全図（明治22年）、鶴岡市街図（明治16年）、山形県新築之図（明治14年）など

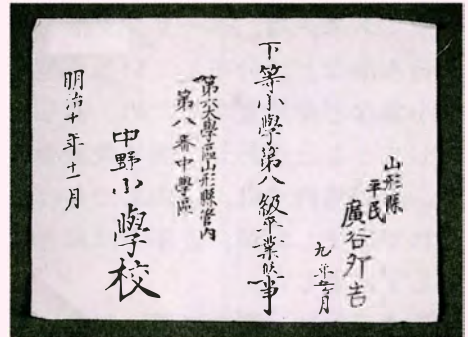
### 【教育】明治時代の卒業証書等

教育部門の新収蔵資料の中から明治時代の卒業証書等を紹介します。わが国の近代学校は、明治5（1872）年発布の「学制」によりあゆみはじめました。県内各地の歴史の古い小学校では創立130周年を迎える頃となっています。

明治5年に制定された最初の小学教則では、6歳から13歳までの8年を学齢としました。

小学を分けて上下二等とし、各等とも八級から一級までの段階を設け、修業期間は各6ヵ月と定めました。各級ごとに小試験があり合格すれば進級できました。

明治初期は教科書の自由出版が認められ、山形で出版された種々の教科書も使われました。しかし、明治19（1886）年には教科書は検定制になり、地方出版の教科書は少なくなっていました。



明治時代の卒業証書

展示資料：下等小学第八級卒業証書（明治10年）、下等小学第一級卒業証書（明治14年）、学業優等賞状（明治15年）、山形県地理書（明治12年）など

### 【第2期】

平成16年3月21日（日）～ 6月13日（日）

植物・動物・地学・民俗部門

#### 【植物】 消息不明の植物たち

かつては生育が確認されていたにもかかわらず、近年長期にわたって確実な生育情報がない植物を紹介します。これらの植物は、山形県では絶滅したと判断するほどのデータがないため、「現状不明種」とされていますが、絶滅している可能性も高いと考えられます。かつての自生地は、将来他の生育地からの再定着や埋土種子の発芽などにより回復する可能性もあるので、現存する動植物とともにその環境の保全に努める必要があります。また、情報源が多くなれば新たな自生地が見つかることも十分考えられますので、今回の館蔵品展で紹介し、広く情報を求めたいと考えています。

その他、最近新種として発表されたガッサントリカブトなども展示します。



ガッサントリカブト

展示資料：ヒヨクソウ、ムカゴソウ、セイタカスズムシソウ、ミヤマツチトリモチ、ガッサントリカブトなど

#### 【動物】 鳥類・昆虫類（トンボ類） 標本

本館には故石沢慈鳥氏が収集された「石沢コレクション」という鳥類の資料が収蔵されています。今年度、石沢氏のご遺族の方が所蔵されていた残りの資料を本館に寄贈していただきました。今回はこの中からウミスズメの剥製はくせいを展示します。



ウミスズメは、ベーリング海を中心にオホーツク海や日本海などに分布している小型の海鳥です。潜水して小魚などを捕食するため、流し網などに捕らえられてしまうことがあり、個体数減少の一因となっています。山形県内では、庄内浜で冬に海上や港湾内で確認されていましたが、近年ではほとんど見られなくなってしまいました。

このほかに、事故に遭い収集された鳥類の剥製と山形県産のトンボ類標本もあわせて展示します。



ウミスズメ

展示資料：ウミスズメ・オオルリ・カワセミなどの剥製、ミゾコイ、ライチョウ・ウミガラスなどの卵、山形県産トンボ類標本など

### 【地学】山形市から産出した動物化石

山形市は山形盆地の南東部に位置し、市街地は馬見ヶ崎川の扇状地の上に広がっています。扇状地周辺に広がる山地や丘陵には、主に新第三期中新世に堆積した凝灰岩・砂岩・泥岩などの地層が分布しています。山形市近辺の地層は下位から、基盤の花崗岩類を不整合に覆い凝灰岩を主とする宝沢層、泥岩を主とする高瀬層、凝灰岩を主とする成沢層が順に堆積しています。これらの地層から、これまでにたくさんの化石が報告されています。今回、これらの地層から産出した貝類や腕足類、サメの歯化石などを紹介します。



ムカシチサラガイ（成沢層産）

展示資料：宝沢層産貝類化石、高瀬層産サメの歯化石、成沢層産貝類・腕足類・サメの歯化石など

### 【民俗】暮らしの中の度量衡

長さ・容積・重さ・広さ・速さ・時間・温度・濃度・角度…私たちの日常生活の中で、「はかる」ことは、いろいろな場面で行われます。そして、無意識のうちにそれを利用して、コミュニケーションや取引を成り立たせ、個人の間や社会の中での信頼関係を保っているわけです。

ハイテク化がすすみ、はかることも、表示することも、利用することも容易になりましたが、今回は原点に帰って、アナログ的に「はかる」道具に注目しました。取り上げたのは 度（長さ）・量（容積）・衡（重さ）の3つの分野です。



いろいろな枡

展示資料：樵物差、曲尺、折尺、一合枡、一升枡、斗枡、斗搔、絹秤、皿秤、竿秤、台秤など